

身近で発生する犯罪の実態と 犯罪に遭わないための心構え

奈良県防犯協会・専務理事の宮本氏

火曜午餐会・4月第1例会は2日12時15分から当部5階大会議室で開催した。講師に公益財団法人奈良県防犯協会・専務理事の宮本広志氏を招き「身近で発生する犯罪の実態と犯罪に遭わないための心構え」をテーマに語って頂いた。宮本氏は「警察や県、各市町村、防犯ボランティア団体と連携をさせていただき、犯罪や非行のない安全で安心して暮せる地域づくりを目指して、防犯広報啓発活動の実施、推進させていただいている」と語った。講演要旨は次の通り。

特殊詐欺

特殊詐欺被害防止の合言葉『電話口 お金の話 それは詐欺』。電話でお金の話が出れば、詐欺を疑って相談してください。

特殊詐欺の手口は、電話、メール、はがき、そして封書などを使い相手を騙す。手口として、いくらでも融資をしますが、信用が無いので先に保証金を出してください、とお金をかすめ取る『融資保証詐欺』。市役所職員を騙り、還付しますよと近くのATM機へ誘い、誤操作をさせ通帳の中のお金を盗む『還付金詐欺』。有料サイトの使用料を払っていない、放っておけば裁判にかけますよと騙し振り込ませる『架空請求詐欺』。そして、息子や孫になりすまし、「病気に罹った」、「女性を妊娠させてしまった」などと、示談金や弁護士料などの名目で現金を要求する『オレオレ詐欺』。今では、名前、出身学校、友達の名前も調べた上で電話をかけてくるので、見破るのが難しくなっている。

また百貨店や金融機関の職員を名乗り、「あなた名義のカードが不正使用されているのでキャッシュカードを交換する」等と言って家までキャッシュカードを取りに来る。実際にこの手口の電話が私の自宅にもかかってきた。電話番号はN T Tの電話帳には載せて

はない。妻の名前も調べてかけてきた。ナンバーディスプレイには「圏外」の表示が出ており、調べると海外からかけていることが分かった。先日、タイで日本人詐欺グループが逮捕されたが、同様の手口での犯行だろう。

全国での特殊詐欺の発生件数は、年間1.6万件で被害額は356億円。奈良県での特殊詐欺の件数は、平成28年で157件あり、被害額は約5.4億円。29年には159件で3.8億円。そして30年には119件と件数は減少しているが、被害額は約4.6億円と増加している。

特殊詐欺に比べ、刑法犯罪は一年間で7,764件も発生し、内7割が窃盗犯で現金被害額は1.6億円。被害額を比べると、いかに特殊詐欺の被害額が大きいかが分かる。

被害防止対策

被害者本人は、なぜ騙されたのか、なぜあの時に誰かに相談をしなかったのか、と悩み続ける。家族に相談しても、逆に責められてしまう。ひどい場合は被害者が自殺してしまい、詐欺が殺人になってしまうことも

ある。

詐欺の電話は、平日の午前中や昼間で、高齢者が一人で留守番されている時間帯。家族が揃う夕方や食事時には無い。

被害防止対策としては、まず家族と話し合ってください。オレオレ詐欺では、合言葉を決めてください。電話でお金の話が出れば詐欺だと思ってください。相談できる人を見つける。あるいは警察の相談窓口『#9110』に電話してください。電話に出れば被害に遭う場合が多いので、留守番電話にしておく。迷惑電話防止機器の設置するのも有効な方法です。市町村によっては設置費用の補助金があるので活用していただき、犯罪防止、対策へのご協力をお願いします。

